

水資源機構における取り組み (施工数量を評価指標とする総合評価方式)

独立行政法人水資源機構は、新しい契約方式の一環として、荒川ダム総合事業所において発注する以下の予定工事において、総合評価落札方式の中で「施工数量の競争」という新しい視点で契約する工事の試行を行っている。

(水資源機構 H16/8/14 記者発表資料)

(1) 試行対象工事

工事名：平成 16 年度浦山ダム副ダム堆砂除去工事

- ① 発注方式：通常指名競争入札
- ② 工事場所：埼玉県秩父市大字浦山地内他
- ③ 工期：約 3 ヶ月
- ④ 工事概要：
 - ・標準施工数量 土砂掘削運搬 16,000 立方メートル
- ⑤ 工事種別：土木一式工事
- ⑥ 発注予定時期：平成 16 年 9 月

(2) 総合評価方式の概要

総合評価方式は価格と価格以外の要素を総合的に評価する契約方式である。今回試行する本方式は、価格以外の要素として、施工数量を評価することとし、予め発注者が予定価格（事前公表を前提）・標準施工数量・工期・仕様を明示した上で、入札参加者に価格及び施工可能な数量を入札させ、予定価格の範囲内かつ標準施工数量以上の範囲で、『施工数量（得点）／入札価格』が最も高い者を契約の相手方にするものである。本方式により、標準施工数量以上の数量が施工され、機能の早期発現または回復を期待するものである。

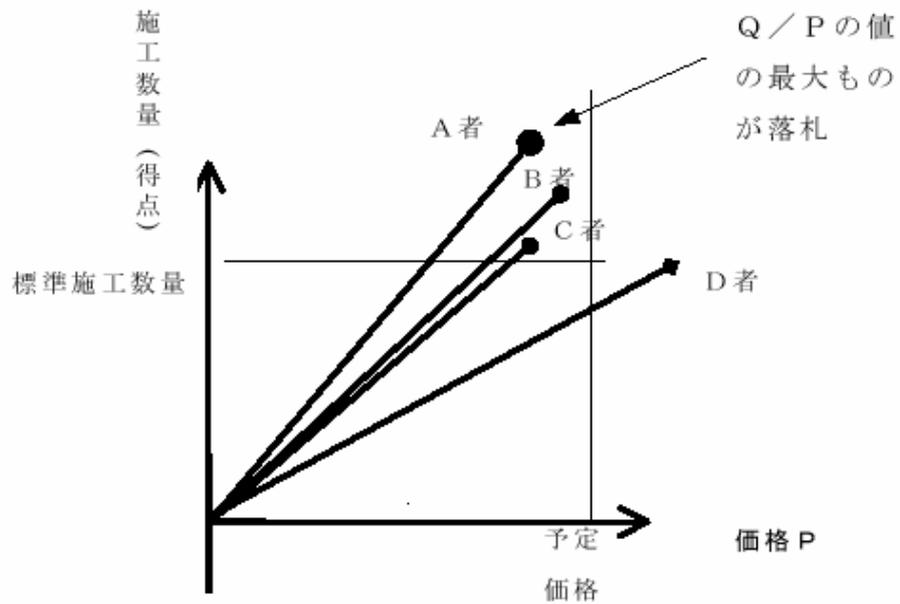
(3) 落札者の決定方法

評価の方法は次図に示すとおりであり、主な内容は以下に示す。

- ① 入札者から提示された施工数量（価格以外の要素）を得点として評価
- ② 施工数量に応じた必要コストを考慮
- ③ 施工数量と入札価格の比で優劣を評価し、
施工計画書、工程表、内訳明細書の適正性を確認したうえで、評価値の最も高い者を落

札者とする。ただし、同点の場合は施工数量（得点）の最も高い者を落札者とする。

$$\text{評価値} = \text{施工数量（得点）} / \text{入札価格}$$



D者は予定価格を上回っているので失格。A者は最も評価値が高く、落札者となる。